

**IBM InfoSphere DataStage and  
QualityStage**  
バージョン 11 リリース 3

**IBM InfoSphere Information  
Server Teradata Connector**  
メッセージ・リファレンス





**IBM InfoSphere DataStage and  
QualityStage**

バージョン 11 リリース 3

**IBM InfoSphere Information  
Server Teradata Connector  
メッセージ・リファレンス**



**お願い**

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、27 ページの『特記事項および商標』に記載されている情報をお読みください。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： SC19-4344-00

IBM InfoSphere Information Server Version 11 Release 3

IBM InfoSphere Information Server

Netezza Connector Message Reference

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

© Copyright IBM Corporation 2013, 2014.

---

## 目次

Teradata Connector メッセージ . . . . .	1	付録 E. 製品資料へのアクセス . . . . .	23
付録 A. 製品のアクセシビリティ . . . . .	15	付録 F. 製品資料に関するフィードバック の提供 . . . . .	25
付録 B. コマンド・ライン構文の読み方 . . . . .	17	特記事項および商標 . . . . .	27
付録 C. 構文図の見方 . . . . .	19	索引 . . . . .	33
付録 D. IBM の窓口 . . . . .	21		



---

## Teradata Connector メッセージ

このメッセージ・リファレンスには、Teradata Connector が返す可能性があるメッセージが含まれています。

ユーザーは、Teradata Connector がインストールされているオペレーティング・システムの機能を熟知しておく必要があります。このメッセージ・リファレンスの情報を使用して、エラーや警告を特定し、適切なリカバリー・アクションによって問題を解決することができます。また、この情報により、メッセージが生成され記録される場所を確認できます。

このコネクタは、インストール、ファイルの書き込みおよび読み取り、および製品の一般的な使用において発生するエラーに関するメッセージを生成します。

各メッセージには、接頭部 (HS) とメッセージ番号から構成されるメッセージ ID があります。メッセージは、メッセージ番号に基づいて番号順にリストされています。メッセージ・タイプには、エラー、警告、および通知の 3 種類があります。E で終わるメッセージ ID は、エラー・メッセージです。W で終わるメッセージは警告を示しています。I で終わるメッセージは通知メッセージを示しています。

メッセージ中にある {0} 記号は、コードによって返される変数を示しています。この変数は、生成されたメッセージに固有の値またはプロパティを表します。

エラーの詳細は、IBM® InfoSphere™ DataStage® and QualityStage™ Director クライアントのログ・ファイルで確認できます。

---

### IIS-CONN-TERA-04001E 必須プロパティが指定されませんでした

**説明:** Teradata Connector が欠落しているプロパティ値を検出した際にエラーが発生しました。エラー・メッセージの先頭には修正が必要なプロパティが記載されます。例えば、必須である表名が欠落している場合、次のメッセージが表示されます。Teradata\_Connector\_0: Property /Usage/TableName: 必須プロパティが指定されませんでした。

**ユーザーの処置:** プロパティに値を指定してください。

---

### IIS-CONN-TERA-04002E 値 {プロパティ値} はサポートされません

**説明:** Teradata Connector がサポートされないプロパティ値を検出した際にエラーが発生しました。エラー・メッセージの先頭には修正が必要なプロパティが記載されます。例えば、サポートされない文字セットまたは無効な文字セットがクライアント文字セットに使用されると、次のメッセージが表示されます。

Teradata\_Connector\_0: /Connection/ClientCharacterSet: 値

{プロパティ値} はサポートされません。

**ユーザーの処置:** プロパティの値を修正してください。

---

### IIS-CONN-TERA-04004E 名前 {表名} は Teradata Enterprise ステージで予約されています

**説明:** 表名 {表名} は Teradata Enterprise ステージで予約されているため、同期表の名前として使用できません。

**ユーザーの処置:** 「同期表」プロパティには別の名前を使用してください。

---

### IIS-CONN-TERA-04005E 無効なジョブ・パラメーター値

**説明:** 任意のプロパティに対し、そのプロパティの有効範囲内にはないジョブ・パラメーターを Teradata Connector が検出した際に、エラーが発生しました。エラー・メッセージの先頭には修正が必要なプロパティが記載されます。

**ユーザーの処置:** プロパティに使用されるジョブ・パ

ラメーターの値を修正してください。

---

#### IIS-CONN-TERA-05001E 内部エラー

**説明:** 予期しない内部エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:** ジョブ・ログとジョブ・デザインを収集して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。ジョブ・デザインは .dsx ファイルおよび .isx ファイルとしてエクスポートできます。

IBM ソフトウェア・サポートに連絡する前に収集する必要がある特定のログと情報については、InfoSphere Information Server インフォメーション・センターのトラブルシューティングのトピックを参照してください。

他のユーザーと共有できるようにジョブ・デザインを .dsx ファイルとしてエクスポートする方法については、InfoSphere Information Server インフォメーション・センターの InfoSphere DataStage and QualityStage ジョブのデザインに関するトピックを参照してください。他のユーザーと共有できるようにジョブ・デザインを .isx ファイルとしてエクスポートする方法については、InfoSphere Information Server インフォメーション・センターのジョブのデプロイおよびバージョン管理のアクセスに関するトピックを参照してください。

---

#### IIS-CONN-TERA-05002E メモリーの割り振りに失敗しました

**説明:** オペレーティング・システムが、Teradata Connector によって要求されたメモリーを割り振るのに失敗しました。

**ユーザーの処置:** システム・リソースを解放するか、使用可能なメモリーを増やしてから、ジョブを再実行してください。

---

#### IIS-CONN-TERA-05003E RDBMS コード {RDBMS エラー・コード}: {エラー・メッセージ}

**説明:** Teradata API 呼び出しによりエラーが報告されました。RDBMS エラー・コードは {RDBMS エラー・コード} です。返されたメッセージは {エラー・メッセージ} です。

**ユーザーの処置:** 返されたエラー・コードおよびメッセージについて詳しくは、Teradata メッセージの資料を参照してください。

---

#### IIS-CONN-TERA-05004E RDBMS コード {RDBMS エラー・コード}: {エラー・メッセージ} SQL ステートメント: {SQL ステートメント}

**説明:** Teradata API 呼び出しが指定された SQL ステートメントを実行しようとしたときに、エラーが発生しました。

トメントを実行しようとしたときに、エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:** 返されたエラー・コードおよびメッセージについて詳しくは、Teradata メッセージの資料を参照してください。

---

#### IIS-CONN-TERA-05005E 列 {列名} の SQL タイプはサポートされません

**説明:** 指定された列のデータ・タイプはサポートされていません。この警告は、ご使用のコネクタのバージョンでまだサポートされていない Teradata データベースのバージョンを使用する際に発生します。

**ユーザーの処置:** Teradata Connector ステージの「列」ページで、不明なデータ・タイプにマップするデータ・タイプを指定してください。マッピングが正しい場合、Teradata Connector は「列」ページで選択されたデータ・タイプを使用してその列を処理します。それでもエラーが解決しない場合は、Teradata Connector をアップグレードしてください。

---

#### IIS-CONN-TERA-05006E 列 {列名} の長さ {長さ} が無効です

**説明:** このエラーの原因として、以下のものが考えられます。

- スtring列に最大長が定義されていない
- 時間列に、8 に等しい長さまたは 10 から 15 の範囲の長さが設定されていない
- タイム・スタンプ列に、19 に等しい長さまたは 21 から 26 の範囲の長さが設定されていない

**ユーザーの処置:** Teradata Connector ステージの「列」ページで、すべてのString列の長さを入力し、時間列とタイム・スタンプ列の長さを有効にしてください。

---

#### IIS-CONN-TERA-05007E フィールド {フィールド名} がスキーマにありません

**説明:** 指定されたフィールドは、SQL ステートメントで使用されますが、列からは参照されていません。

**ユーザーの処置:** Teradata Connector ステージの「列」ページで、SQL ステートメントの未使用フィールドを参照する列を追加してください。

---

#### IIS-CONN-TERA-05008E フィールド {フィールド名} に含まれている値のバイト長は {フィールド長} ですが、これは割り振られている長さの {列長} を超えています (フィールドの値は ¥{フィールド値} ¥)

**説明:** Teradata Connector がString列を書き込もう



とした際に、入力値が割り振られた長さを超えています。この結果、指定された値は切り捨てられます。

**ユーザーの処置:** Teradata Connector ステージの「列」ページで、列の長さを指定可能な最大値まで大きくしてください。

---

**IIS-CONN-TERA-05009E 照会から {返された行数} 行が返されました。SQL ステートメント: {SQL ステートメント}**

**説明:** Teradata Connector がデータ・ディクショナリー、メタデータ、LOB ロケーター、または同期表の照会を実行した後、予期しない数の行が返されました。Teradata Connector は指定された照会ステートメント {SQL ステートメント} を実行し、0 個または複数のレコードが返されました。このエラーは、ソース表が変更されたか、固有性を保証するのに十分なキー列が照会に含まれていない場合に発生します。

**ユーザーの処置:** 以下のいずれかのステップを実行します。

- LOB ロケーターの照会が固有でないことが原因でエラーが発生した場合、Basic Teradata Query (BTEQ) ユーティリティーを使用して Teradata コマンド・ラインで照会を実行することで、その照会が単一レコードを返すかどうかを判別します。必要に応じて、追加のキー列を指定することで、照会を修正してください。表内の列は、キーの一部であっても、Teradata Connector ステージの「列」ページではキー列として表示されない場合があるので、追加のキー列を指定する必要がある可能性があります。
- エラーがデータ・ディクショナリーまたは同期表の照会と関連している場合、返されたエラー・コードを確認して、照会が固有の行を返さなかった理由を特定します。エラーの原因を特定できない場合は、ジョブ・ログとジョブ・デザインを収集して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

IBM ソフトウェア・サポートに連絡する前に収集する必要がある特定のログと情報については、

InfoSphere Information Server インフォメーション・センターのトラブルシューティングのトピックを参照してください。

---

**IIS-CONN-TERA-05010W 行の長さ {行サイズ} バイトに配列サイズ {配列サイズ} を掛けた見積もりは {バッファサイズ} ですが、これは最大バッファサイズ {Teradata 最大パーセル・サイズ} を超えます**

**説明:** 内部バッファサイズ {バッファサイズ} (各行の長さが {行サイズ} バイトである {配列サイズ

{行のバッチを転送するのに必要となる内部バッファのサイズ} が、Teradata 最大バッファサイズ {Teradata 最大パーセル・サイズ} を超えています。実際のデータでは、すべてのバッファは必要になりません。また、実際のデータが内部的にすべてのバッファを使用した場合、Teradata によって使用されるのはより小さな配列サイズです。

**ユーザーの処置:** 以下のいずれかのステップを実行します。

- 配列サイズを小さくし、Teradata Connector が Teradata にデータを転送する際により小さなバッファが使用されるようにする。
- 「使用法」 > 「制限設定」 > 「最大バッファサイズ」 プロパティを使用して、Teradata 最大バッファサイズを大きくする。

---

**IIS-CONN-TERA-05011E フィールド {フィールド名} を参照している SQL ステートメントがありません**

**説明:** 指定されたフィールド {フィールド名} は Teradata Connector の「列」タブにありましたが、SQL ステートメントでは使用されませんでした。

**ユーザーの処置:** SQL ステートメントを修正し、Teradata Connector の「列」タブ内にあるすべての列がこれに含まれるようにするか、もしくは、フィールドが SQL で使用されていない場合、「使用法」 > 「セッション」 > 「スキーマ調整」 > 「未使用フィールドのアクション」 プロパティを、優先させる動作に変更してください。

---

**IIS-CONN-TERA-05012E RDBMS コード {SQL エラー・コード}: フィールド {フィールド名}**

**説明:** 指定されたフィールドが原因で RDBMS エラーが発生したために、1 つの行がエラー表内に保管されましたが、その行をリジェクトできませんでした。

このエラーは、リジェクト・リンクが存在しない場合、または指定の RDBMS エラーにより失敗したレコードを受け入れるようにリジェクト・リンクが構成されていない場合に発生します。

**ユーザーの処置:** 指定のエラー・コードにより失敗したレコードを受け入れるリジェクト・リンクを使用して、ジョブを構成してください。

**IIS-CONN-TERA-05013E** ユニーク・キー違反のため、ロードが失敗しました

**説明:** Teradata Connector がバルク・アクセスを使用してデータのロードまたは更新を行った際、ユニーク違反によりエラーが発生し、当該ジョブには構成済みのリジェクト・リンクがありませんでした。

**ユーザーの処置:** ユニーク違反によりリジェクトされた入力行については、エラー表 2 を確認してください。Teradata Connector は、「**使用法**」>「**バルク・アクセス**」>「**エラー表 2**」プロパティを使用して第 2 エラー表を定義します。このプロパティに値が指定されていない場合、コネクタはエラー表 2 にデフォルトの名前 (ターゲット表の名前に接尾部 `_UV` を付けたもの) を使用します。

**IIS-CONN-TERA-05014I** {レコード数} 件のレコードが処理されました

**説明:** Teradata Connector は {レコード数} 件のレコードを処理しました。また、「**使用法**」>「**制限設定**」>「**進行状況間隔**」プロパティの値に基づいてその進行状況をログに記録します。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

**IIS-CONN-TERA-05015I** 合計 {レコード数} 件のレコードが処理されました

**説明:** Teradata Connector はこのプレイヤー・ノードで {レコード数} 件のレコードを処理しました。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

**IIS-CONN-TERA-05016I** ターゲット表が正常に作成されました。SQL ステートメント: {SQL ステートメント}

**説明:** Teradata Connector は指定された SQL ステートメントを実行し、ターゲット表を作成しました。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

**IIS-CONN-TERA-05017I** ターゲット表が正常にドロップされました。SQL ステートメント: {SQL ステートメント}

**説明:** Teradata Connector は指定された SQL ステートメントを実行し、ターゲット表をドロップしました。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

**IIS-CONN-TERA-05018I** ターゲット表が正常に切り捨てられました。SQL ステートメント: {SQL ステートメント}

**説明:** Teradata Connector は指定された SQL ステートメントを実行し、ターゲット表を切り捨てました。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

**IIS-CONN-TERA-05019I** 表 {表名} が正常に作成されました

**説明:** Teradata Connector は、指定された表 (通常はロード処理の同期表または作業表) を作成しました。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

**IIS-CONN-TERA-05020I** 表 {表名} が正常にドロップされました

**説明:** Teradata Connector は、指定された表 (通常はロード処理の同期表、作業表、エラー表、またはログ表) をドロップしました。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

**IIS-CONN-TERA-05021I** SQL ステートメントが正常に実行されました。{SQL ステートメント}

**説明:** Teradata Connector は指定された SQL ステートメントを正常に実行しました。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

**IIS-CONN-TERA-05022W** 前回の実行のチェックポイント情報を取得できません。このため処理を再開しても、データ・セットの先頭から再実行されます

**説明:** コネクタは、同期表を照会して前回の実行のチェックポイント情報を取得することができませんでした。「**使用法**」>「**バルク・アクセス**」>「**開始モード**」プロパティは「**再実行**」に設定されていますが、コネクタが同期表にアクセスできなかったか、もしくはパラレル同期が使用不可に設定されていました。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です

**IIS-CONN-TERA-05023E** 他のインスタンスが状態 {同期状態} に到達するのを待機している間に同期タイムアウトの {タイムアウト} 秒が経過しました

**説明:** Teradata Connector は、他のインスタンスが指定の同期状態で同期するのを {タイムアウト} 秒待機し

た後、タイムアウトになりました。

**ユーザーの処置:** 「使用法」>「パラレル同期」>「同期タイムアウト」プロパティおよび「使用法」>「パラレル同期」>「終了タイムアウト」プロパティに指定された値を大きくしてください。エラーが解決しない場合は、Teradata データベースのログを確認して、他のインスタンスの処理が遅い理由を特定してください。

---

**IIS-CONN-TERA-05024E** マスター・インスタンスが TELINFO 領域を更新するのを待機している間に同期タイムアウトの {タイムアウト} 秒が経過しました

**説明:** Teradata Connector は、マスター・インスタンスが同期表の TELINFO 領域を更新するのを {タイムアウト} 秒待機した後、タイムアウトになりました。

**ユーザーの処置:** 「使用法」>「パラレル同期」>「同期タイムアウト」プロパティに指定された値を大きくしてください。エラーが解決しない場合は、Teradata データベースのログを確認して、マスター・インスタンスによる同期表の TELINFO 領域の更新が遅い理由を特定してください。

---

**IIS-CONN-TERA-05025E** {行カウント} 行で、他のインスタンスがチェックポイントに到達するのを待機している間にチェックポイント・タイムアウトの {タイムアウト} 秒が経過しました

**説明:** Teradata Connector は、{行カウント} 行を処理し、他のインスタンスがチェックポイントで同期するのを {タイムアウト} 秒待機した後、タイムアウトになりました。

**ユーザーの処置:** 「使用法」>「パラレル同期」>「チェックポイント・タイムアウト」プロパティおよび「使用法」>「パラレル同期」>「同期タイムアウト」プロパティに指定された値を大きくしてください。エラーが解決しない場合は、Teradata データベースのログを確認して、他のインスタンスがチェックポイントに到達できなかった理由を特定してください。

---

**IIS-CONN-TERA-05026E** {行カウント} 行で、他のインスタンスがチェックポイント状態 {チェックポイント状態} に到達するのを待機している間に同期タイムアウトの {タイムアウト} 秒が経過しました

**説明:** Teradata Connector は、{行カウント} 行を処理し、他のインスタンスがチェックポイント状態 {チェックポイント状態} で同期するのを {タイムアウト} 秒待機した後、タイムアウトになりました。

**ユーザーの処置:** 「使用法」>「パラレル同期」>「チェックポイント・タイムアウト」プロパティおよび「使用法」>「パラレル同期」>「同期タイムアウト」プロパティに指定された値を大きくしてください。エラーが解決しない場合は、Teradata データベースのログを確認して、他のインスタンスがチェックポイントに到達できなかった理由を特定してください。

---

**IIS-CONN-TERA-05027E** マスター・インスタンスがエラーを検出したため、{行カウント} 行でのチェックポイントを実行できません

**説明:** Teradata Connector は、{行カウント} 行を処理した後、マスター・インスタンスがエラーを検出したため、チェックポイントを実行できませんでした。

**ユーザーの処置:** ジョブ・ログと Teradata データベース・ログを確認し、マスター・インスタンスが失敗した理由を特定してください。

---

**IIS-CONN-TERA-05028I** {行カウント} 行でチェックポイントを完了しました

**説明:** Teradata Connector は、{行カウント} 行を処理した後、チェックポイントを正常に実行しました。このメッセージは、「使用法」>「制限設定」>「進行状況間隔」プロパティに指定された間隔に基づいてログに書き込まれます。

**ユーザーの処置:** このメッセージを抑止するには、「使用法」>「制限設定」>「進行状況間隔」プロパティを 0 に設定してください。

---

**IIS-CONN-TERA-05029E** 別のインスタンスがエラーを検出したため続行できません

**説明:** Teradata Connector インスタンスは、別のインスタンスにエラーを検出したため、ジョブを停止したか失敗しました。

**ユーザーの処置:** ジョブ・ログと Teradata データベース・ログを確認し、他のインスタンスが失敗した理由を特定してください。

---

**IIS-CONN-TERA-05030I** 開始行: {行番号}

**説明:** Teradata Connector は指定された行で処理を開始します。この値は、「使用法」>「制限設定」>「開始行」プロパティによって制御されます。前のチェックポイントからジョブを再開する場合は、それらの行も行番号に含まれます。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

---

**IIS-CONN-TERA-05031I 終了行: {行番号}**

説明: Teradata Connector は指定された行で処理を停止します。この値は、「使用法」>「制限設定」>「終了行」プロパティによって制御されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

---

**IIS-CONN-TERA-05032I コネクター・サマリー**

説明: Teradata Connector は後続のメッセージにジョブ・サマリーを記録します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

---

**IIS-CONN-TERA-05034I ノード数: {ノード数}**

説明: Teradata Connector は、このジョブを実行するために {ノード数} 個のプロセスを作成しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

---

**IIS-CONN-TERA-05035I パーティション数: {パーティション数}**

説明: Teradata Connector は、このジョブの実行中に {パーティション数} 個のパーティションに接続しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

---

**IIS-CONN-TERA-05036I セッションの総数: {セッション数}**

説明: Teradata Connector は、このジョブの実行中に {セッション数} 個のセッションを使用しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

---

**IIS-CONN-TERA-05037I 配列サイズ: {配列サイズ}**

説明: Teradata Connector は、このジョブの実行時に {配列サイズ} の配列サイズを使用しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

---

**IIS-CONN-TERA-05038I バッファースize (バイト数): {バッファースize}**

説明: Teradata Connector は、このジョブの実行時に {バッファースize} バイトのバッファースizeを使用しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

---

**IIS-CONN-TERA-05039I 最大バッファースize (バイト数): {バッファースize}**

説明: Teradata Connector は、このジョブの実行時に {バッファースize} バイトの最大バッファースizeを使用しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

---

**IIS-CONN-TERA-05040I 入力行の総数: {入力行数}**

説明: Teradata Connector は、このジョブの実行時に合計 {入力行数} 個の入力行を処理しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

---

**IIS-CONN-TERA-05041I ブロックの総数: {ブロック数}**

説明: Teradata Connector は、このジョブの実行時に合計 {ブロック数} 個のブロックを処理しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

---

**IIS-CONN-TERA-05042I バイト総数: {バイト数}**

説明: Teradata Connector は、このジョブの実行時に合計 {バイト数} バイトを処理しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

---

**IIS-CONN-TERA-05043I チェックポイントの数: {チェックポイント数}**

説明: Teradata Connector は、このジョブの実行時に {チェックポイント数} 個のチェックポイントを実行しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

---

**IIS-CONN-TERA-05044I 挿入された行の総数: {行数}**

説明: Teradata Connector は、このジョブの実行時に {行数} 個の行を挿入しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

---

**IIS-CONN-TERA-05045I 更新された行の総数: {行数}**

説明: Teradata Connector は、このジョブの実行時に {行数} 個の行を更新しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

---

**IIS-CONN-TERA-05046I 削除された行の総数: {行数}**

説明: Teradata Connector は、このジョブの実行時に {行数} 個の行を削除しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**IIS-CONN-TERA-05047I 選択された行の総数: {行数}**

説明: Teradata Connector は、このジョブの実行時に {行数} 個の行を選択しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**IIS-CONN-TERA-05048I リジェクトされた行の総数: {行数}**

説明: Teradata Connector は、このジョブの実行時に {行数} 個の行をリジェクトしました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**IIS-CONN-TERA-05049I 見つからなかった行の総数: {行数}**

説明: Teradata Connector は、このジョブの実行時に {行数} 個の行を検出しませんでした。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**IIS-CONN-TERA-05050I ユニーク違反の総数: {行数}**

説明: Teradata Connector は、このジョブの実行時にユニーク違反のある行を {行数} 個検出しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**IIS-CONN-TERA-05051I SQL エラーの総数: {行数}**

説明: Teradata Connector は、このジョブの実行時に SQL エラーを報告した行を {行数} 個検出しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**IIS-CONN-TERA-05052I 追加できなかった行数: {行数}**

説明: Teradata Connector は、バルク・ロードを使用して表を追加したとき、{行数} 個の行を追加できませんでした。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**IIS-CONN-TERA-05053I スキップされた行および無視された重複行の数: {行数}**

説明: Teradata Connector は、このジョブの実行時に、

スキップされた行、または無視された重複行を {行数} 個検出しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**IIS-CONN-TERA-05054I 終了コード: {終了コード}**

説明: Teradata Parallel Transporter は、このジョブの実行時に終了コード {終了コード} を報告しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**IIS-CONN-TERA-05055I 最大合計待ち時間 (秒数): {待ち時間}**

説明: Teradata Connector は、このジョブの実行時に、インスタンスが同期するのを最大 {待ち時間} 秒待機しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

**IIS-CONN-TERA-05056E TELINFO 領域のサイズは {TELINFO 領域のサイズ} バイトですが、これは予期した最大サイズの {TELINFO 領域の最大サイズ} を超えています**

説明: 指定された TELINFO 領域のサイズが最大サイズを超えています。

Teradata Parallel Transporter の通信領域は TELINFO と呼ばれます。

ユーザーの処置: Teradata Parallel Transporter のログを確認して、TELINFO 領域のサイズが最大サイズより大きくなった理由を特定してください。問題を解決できない場合は、ジョブ・ログとジョブ・デザインを収集して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。ジョブ・デザインは .dsx ファイルおよび .isx ファイルとしてエクスポートできます。

IBM ソフトウェア・サポートに連絡する前に収集する必要がある特定のログと情報については、InfoSphere Information Server インフォメーション・センターのトラブルシューティングのトピックを参照してください。

他のユーザーと共有できるようにジョブ・デザインを .dsx ファイルとしてエクスポートする方法については、InfoSphere Information Server インフォメーション・センターの InfoSphere DataStage and QualityStage ジョブのデザインに関するトピックを参照してください。他のユーザーと共有できるようにジョブ・デザインを .isx ファイルとしてエクスポートする方法については、InfoSphere Information Server インフォメーション・センターのジョブのデプロイおよびバージョン管理のアクセスに関するトピックを参照してください。

---

**IIS-CONN-TERA-05057E エラー表 {エラー表番号} の RDBMS コード {SQL エラー・コード}**

**説明:** RDBMS エラー・コード {SQL エラー・コード} のために 1 つの行がエラー表 {エラー表番号} 内に保管されましたが、その行をリジェクトできませんでした。Teradata は、その行のどの列がエラーの原因であるかについては示しませんでした。

このエラーは、以下の理由で発生する可能性があります。

- リジェクト・リンクが存在しない
- RDBMS コード {SQL エラー・コード} に指定された理由により失敗したレコードを受け入れるようにリジェクト・リンクが構成されていない

**ユーザーの処置:** ジョブ内に、指定されたエラー・コードの理由により失敗したレコードを受け入れるリジェクト・リンクを追加してください。

---

**IIS-CONN-TERA-05058I 処理された行数: {行数}**

**説明:** BEFORE SQL ステートメントまたは AFTER SQL ステートメント が実行され、そのステートメントにより {行数} 個の行が処理されました。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

---

**IIS-CONN-TERA-05059E スキーマが空です**

**説明:** Teradata Connector は、ジョブに定義されたスキーマとターゲット表のスキーマとの差分を調整しました。その結果のスキーマに含まれる列の数は 0 個でした。共通の列は検出されませんでした。

このエラーは、「使用法」>「セッション」>「スキーマ調整」>「未使用フィールドのアクション」プロパティが「中止」以外の値に設定されていて、ジョブのスキーマとターゲット表のスキーマとの間に共通の列がない場合に発生します。

**ユーザーの処置:** 「列」ページの 1 つ以上の列がターゲット表内の列と一致するようにしてください。DML ステートメントを手動で入力した場合、そのステートメントに共通の列が含まれるようにしてください。

---

**IIS-CONN-TERA-05062E ファイル {ファイル名} のオープンでエラーが返されました {エラー・コード}: {エラー・メッセージ}**

**説明:** Teradata Connector は指定されたファイルを開くことができませんでした。

このエラーは、ファイル・パスが正しくない場合や、ジョブを実行するオペレーティング・システムのユーザー

ID にそのファイルへのアクセス権限が付与されていない場合に発生します。

**ユーザーの処置:** 以下のアクションを実行します。

- 指定されたエラー・コードおよびエラー・メッセージを確認して、指定されたファイルを開けなかった理由を特定する。
- ファイル・パスとファイル名が正しいことを確認する。
- ジョブを実行するオペレーティング・システム・ユーザーに、当該ファイルにアクセスするために必要な権限を付与する。

---

**IIS-CONN-TERA-05063E 無効な文字セット名: {文字セット名}**

**説明:** Teradata Connector は、{文字セット名} 文字セットのコンバーターを特定できませんでした。このエラーは、「接続」>「自動マップ文字エンコード」プロパティが「いいえ」に設定されていて、「接続」>「NLS マップ名」プロパティに無効な値が指定されている場合に発生します。

**ユーザーの処置:** 「接続」>「NLS マップ名」プロパティに有効な NLS マップ名を指定してください。

---

**IIS-CONN-TERA-05064E 列 {列名} に含まれている値のバイト長は {バイト数} ですが、これは割り振られている長さの {割り振られたバイト数} を超えています**

**説明:** {列名} 列内にある値の長さは {バイト数} バイトですが、これは割り振られている長さの {割り振られたバイト数} バイトを超えています。

このエラーは、Teradata Connector が LOB データを出カリンクに書き込む際、その LOB データのサイズが列のサイズを超えている場合に発生します。列のサイズは、Teradata Connector ステージの「列」ページで指定されています。

**ユーザーの処置:** Teradata Connector ステージの「列」ページで、指定された列のサイズを大きくしてから、ジョブを再実行してください。

---

**IIS-CONN-TERA-05065I 列 {列名} に含まれている値のバイト長は {バイト数} でしたが、長さ {割り振られたバイト数} に切り捨てられました**

**説明:** {列名} 列内にある値の長さは {バイト数} バイトでしたが、これは長さ {割り振られたバイト数} バイトに切り捨てられました。

このメッセージは、Teradata Connector が LOB ロケー

ターを出力リンクに書き込む際、その LOB ロケータのサイズが列のサイズを超えている場合に発生します。列のサイズは、Teradata Connector ステージの「列」ページで指定されています。ダウンストリーム・コネクタが LOB ロケータを使用して LOB データを取得しようとしている場合、そのダウンストリーム・コネクタがエラーを報告する可能性があります。

**ユーザーの処置:** Teradata Connector ステージの「列」ページで、指定された列のサイズを大きくしてから、ジョブを再実行してください。

**IIS-CONN-TERA-05066W** {ソース文字セット} 文字セットから {ターゲット文字セット} への変換はパフォーマンスに影響する可能性があります

**説明:** データ・ソースは {ソース文字セット} 文字セットを使用し、データ・ターゲットは {ターゲット文字セット} 文字セットを使用します。Teradata Connector は {ソース文字セット} 文字セットから {ターゲット文字セット} 文字セットへデータを変換します。変換には追加の処理が必要となる場合があるため、この変換はパフォーマンスに影響する可能性があります。

**ユーザーの処置:** 「接続」>「クライアント文字セット」プロパティの値がこのジョブで使用される文字セットと一致するようにしてください。詳しくは、IBM InfoSphere Information Server インフォメーション・センター内の「クライアント文字セット」プロパティについてのトピックを参照してください。

**IIS-CONN-TERA-05067I 8055** を受け取りました。再接続を試行しています...

**説明:** Teradata Connector はオペレーションを試行し、エラー 8018 またはエラー 8055 を報告しました。

**CC\_TERA\_RECONNECT\_FLAG** 環境変数が 0 でない値に設定されているため、コネクタは再接続を試行します。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

**IIS-CONN-TERA-05068I ENV-VAR:**

**CC\_TERA\_USE\_ISO88591\_ASCII\_MAP** が定義済みです。ISO-8859-1 マップおよび TD-Client 文字セット ASCII を使用します。

**説明:** **CC\_TERA\_USE\_ISO88591\_ASCII\_MAP** 環境変数が定義されています。また、「接続」>「自動マップ文字エンコード」プロパティは「はい」に設定されています。この結果、Teradata Connector は、「接続」>「クライアント文字セット」プロパティに指定された値をオーバーライドし、ISO-8859-1 文字セットを使用します。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

**IIS-CONN-TERA-05069E** コネクタは、Teradata サーバー {サーバー名} への接続を確立できませんでした。RDBMS コード {RDBMS ネイティブ・エラー・コード};{RDBMS ネイティブ・エラー・メッセージ}

**説明:** Teradata Connector が指定の Teradata サーバーに接続しようとしたとき、エラーが発生しました。ネイティブ・エラー・コードは {RDBMS ネイティブ・エラー・コード} で、ネイティブ・エラー・メッセージは {RDBMS ネイティブ・エラー・メッセージ} です。

**ユーザーの処置:** Teradata クライアントを指定のサーバー用に正しく構成するようにしてください。

**IIS-CONN-TERA-05070E** コネクタは、ユーザー {ユーザー名} で Teradata サーバー {サーバー名} にアクセスできませんでした。RDBMS コード {RDBMS ネイティブ・エラー・コード};{RDBMS ネイティブ・エラー・メッセージ}

**説明:** Teradata Connector がユーザー {ユーザー名} で指定の Teradata サーバーにアクセスしようとしたとき、エラーが発生しました。ネイティブ・エラー・コードは {RDBMS ネイティブ・エラー・コード} で、ネイティブ・エラー・メッセージは {RDBMS ネイティブ・エラー・メッセージ} です。

**ユーザーの処置:** 指定されたユーザーに指定のサーバーへのアクセス権限を持たせるようにしてください。

**IIS-CONN-TERA-05071I** 現行配列の行で行エラーが発生しました。障害の原因となっている行を判別するには、「配列サイズ」プロパティを 1 に変更してからジョブを再実行してください。

**説明:** エラーが発生しました。このエラーは、現行配列の行に固有ではない可能性があります。より具体的なエラー情報を取得するために、「配列サイズ」プロパティを「1」に設定してからジョブを再実行してください。

「使用法」>「ロギング」>「最初の行エラー発生時に列値をログに記録する」プロパティは「はい」に設定されています。Teradata は、配列中のどの行が問題の原因であるかについての報告をサポートしていないため、列値はログに記録されません。

**ユーザーの処置:** 「使用法」>「セッション」>「配列サイズ」プロパティを「1」に設定してから、ジョブを

再実行してください。再度ジョブが失敗すると、列値がログに記録されます。

---

#### IIS-CONN-TERA-05072I ログ表が存在しません。「自動」から「新規」に設定します

**説明:** Teradata Connector が、ログ表が存在しないこと、および「**使用法**」 > 「**バルク・アクセス**」 > 「**開始モード**」プロパティが「**自動**」に設定されていることを検出しました。ログ表が存在しないため、Teradata Connector は「**開始モード**」プロパティを「**新規**」に設定します。

ログ表は「**使用法**」 > 「**バルク・アクセス**」 > 「**ログ表**」プロパティにより指定されます。このプロパティが空である場合、ログ表の名前はターゲット表の名前に「**\_LOG**」を追加することで形成されます。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

---

#### IIS-CONN-TERA-05073I ログ表が存在します。「自動」から「再実行」に設定します

**説明:** Teradata Connector が、ログ表が存在すること、および「**使用法**」 > 「**バルク・アクセス**」 > 「**開始モード**」プロパティが「**自動**」に設定されていることを検出しました。ログ表が存在するため、Teradata Connector は「**開始モード**」プロパティを「**再実行**」に設定します。

ログ表は「**使用法**」 > 「**バルク・アクセス**」 > 「**ログ表**」プロパティにより指定されます。このプロパティが空である場合、ログ表の名前はターゲット表の名前に「**\_LOG**」を追加することで形成されます。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

---

#### IIS-CONN-TERA-05074I コネクターが START イベントを発行しました (TDPID = {TDPID}、リソース ID = {リソース ID}、リソース・タイプ = {リソース・タイプ}、ジョブ・ステップ = {ジョブ・ステップ})。

**説明:** Teradata Connector が TMSM START イベントを発行しました。

コネクターは、**CC\_TERA\_TMSM\_LOG\_EVENT** 環境変数が「1」に設定されているとき、TMSM メッセージをログに記録します。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

---

#### IIS-CONN-TERA-05075I コネクターが STEP イベントを発行しました (TDPID = {TDPID}、リソース ID = {リソース ID}、リソース・タイプ = {リソース・タイプ}、ジョブ・ステップ = {ジョブ・ステップ}、DML モード = {DML モード}、データベース = {データベース}、表 = {表}、アクティビティ・カウント = {アクティビティ・カウント})。

**説明:** Teradata Connector が STEP イベントを発行しました。

コネクターは、**CC\_TERA\_TMSM\_LOG\_EVENT** 環境変数が「1」に設定されているとき、TMSM メッセージをログに記録します。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

---

#### IIS-CONN-TERA-05077I コネクターが END イベントを発行しました (TDPID = {TDPID}、リソース ID = {リソース ID}、リソース・タイプ = {リソース・タイプ}、ジョブ・ステップ = {ジョブ・ステップ}、アクティビティ・カウント = {アクティビティ・カウント})。

**説明:** Teradata Connector が END イベントを発行しました。

コネクターは、**CC\_TERA\_TMSM\_LOG\_EVENT** 環境変数が「1」に設定されているとき、TMSM メッセージをログに記録します。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

---

#### IIS-CONN-TERA-05078I コネクターが ALERT イベントを発行しました (TDPID = {TDPID}、リソース ID = {リソース ID}、リソース・タイプ = {リソース・タイプ}、ジョブ・ステップ = {ジョブ・ステップ})。

**説明:** Teradata Connector が ALERT イベントを発行しました。

コネクターは、**CC\_TERA\_TMSM\_LOG\_EVENT** 環境変数が「1」に設定されているとき、TMSM メッセージをログに記録します。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

---



**IIS-CONN-TERA-05079I ALERT** イベントが報告されました (アラート・コード = {アラート・コード}、重大度レベル = {重大度}、エラーの説明 = {エラー・メッセージ})。

**説明:** Teradata Connector が ALERT イベントを発行しました。前のメッセージは、TDPID を含めて、アラートに関する情報と共にログに記録されました。

コネクタは、**CC\_TERA\_TSM\_LOG\_EVENT** 環境変数が「1」に設定されているとき、TSM メッセージをログに記録します。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

**IIS-CONN-TERA-05080E** コネクタが {TSM イベント・タイプ} イベントの送信中にエラーを検出しました。 {エラー・メッセージ}

**説明:** Teradata Connector が指定されたイベントを送信しようとしたとき、エラーが発生しました。TSM からのエラー・メッセージは {エラー・メッセージ} です。

**ユーザーの処置:** 指定されたエラー・メッセージと TSM ログを確認し、イベントが失敗した理由を特定してください。

**IIS-CONN-TERA-05081E** コネクタが UOW 構造の作成中にエラーを検出しました。 {エラー・メッセージ}

**説明:** Teradata Connector が作業単位構造を作成しようとしたとき、エラーが発生しました。TSM からのエラー・メッセージは {エラー・メッセージ} です。

**ユーザーの処置:** 指定されたエラー・メッセージを確認して、作業単位構造を作成できなかった理由を特定してください。

**IIS-CONN-TERA-05081E** コネクタが UOW 構造の作成中にエラーを検出しました。 {エラー・メッセージ}

**説明:** Teradata Connector が作業単位構造を作成しようとしたとき、エラーが発生しました。TSM からのエラー・メッセージは {エラー・メッセージ} です。

**ユーザーの処置:** 指定されたエラー・メッセージを確認して、作業単位構造を作成できなかった理由を特定してください。

**IIS-CONN-TERA-05084E** コネクタが TSM クライアントのロード中にエラーを検出しました。システム呼び出し {オペレーティング・システム API} が次の OS エラーで失敗しました {オペレーティング・システムのエラー・コード} ({オペレーティング・システムのエラー・メッセージ})。

**説明:** Teradata Connector が TSM クライアントをロードしようとしたとき、エラーが発生しました。指定されたオペレーティング・システム API がエラー・コード {オペレーティング・システムのエラー・コード}、エラー・メッセージ {オペレーティング・システムのエラー・メッセージ} で失敗しました。

Teradata Connector が TSM と共に使用するために正しく構成されていませんでした。このエラーは、TSM クライアント・ライブラリーのパスが

**LD\_LIBRARY\_PATH**、**LIBPATH**、**SHLIB\_PATH**、または **PATH** などの正しいシステム環境変数に追加されていない場合に発生します。

**ユーザーの処置:** 以下のステップのいずれか 1 つ以上を行ってください。

- Teradata Connector を TSM と共に使用するよう構成します。詳しくは、IBM InfoSphere Information Server インフォメーション・センター内の TSM 統合のためのインストールおよび構成の要件についてのトピックを参照してください。
- 指定されたエラー・コードおよびエラー・メッセージを確認して、TSM クライアントをロードできなかった理由を特定してください。

**IIS-CONN-TERA-05085E** コネクタが TSM クライアントのロード中にエラーを検出しました。記号 {関数名} が見つかりません。

**説明:** Teradata Connector が TSM クライアントをロードしようとしたとき、エラーが発生しました。指定された記号が TSM クライアント内で見つかりませんでした。

このエラーは、TSM クライアントに問題があることを示します。

**ユーザーの処置:** 以下のステップを実行します。

- TSM クライアントがインストールされており、正しく構成されていることを確認する。
- TSM クライアントのバージョンがサポートされていることを確認する。
- Teradata Connector が TSM と共に使用するために正しく構成されていることを確認する。詳しくは、IBM InfoSphere Information Server インフォメーション

ン・センター内の TMSM 統合のためのインストールおよび構成の要件についてのトピックを参照してください。

---

#### IIS-CONN-TERA-05086E コネクターが TMSM クライアントを初期化できませんでした。

**TMSM クライアントが正常にインストールされていることを確認してください。**

**説明:** Teradata Connector が TMSM クライアントを初期化しようとしたとき、エラーが発生しました。TMSM クライアントはリソースを割り振ることができませんでした。

このエラーは、TMSM クライアントに問題があることを示します。

**ユーザーの処置:** 以下のステップを実行します。

- TMSM クライアントでの使用に対し、十分なメモリーが使用可能であることを確認する。
- TMSM クライアントがインストールされており、正しく構成されていることを確認する。
- TMSM クライアントのバージョンがサポートされていることを確認する。
- Teradata Connector が TMSM と共に使用するために正しく構成されていることを確認する。詳しくは、IBM InfoSphere Information Server インフォメーション・センター内の TMSM 統合のためのインストールおよび構成の要件についてのトピックを参照してください。

---

#### IIS-CONN-TERA-05089I コネクターが最大長を超える TMSM プロセス ID を生成しました。 TMSM\_PROCESSID 環境変数を手動で設定してください。

**説明:** Teradata Connector が TMSM プロセス ID を生成しましたが、そのプロセス ID が最大長を超えています。

コネクターは、InfoSphere DataStage プロジェクトとジョブの名前をハイフンで区切る形で連結して TMSM プロセス ID を生成します。それらの名前が連結されると、プロセス ID の長さが 72 文字以上になりました。

**ユーザーの処置:** TMSM\_PROCESSID 環境変数を使用して、TMSM プロセス ID を指定してください。

**TMSM\_PROCESSID 環境変数について詳しくは、TMSM の資料を参照してください。**

---

#### IIS-CONN-TERA-05090E コネクターが {TMSM イベント・タイプ} イベントの送信中にエラーを検出しました。 {エラー・メッセージ} イベント・メッセージ: {イベント・メッセージ}

**説明:** Teradata Connector が指定されたイベントを送信しようとしたとき、エラーが発生しました。TMSM からのエラー・メッセージは {エラー・メッセージ} です。イベント・メッセージは {イベント・メッセージ} です。

**ユーザーの処置:** 指定されたエラー・メッセージと TMSM ログを確認し、イベントが失敗した理由を特定してください。

---

#### IIS-CONN-TERA-05091I コネクターが TMSM プロセスで次の UOWID を生成しました。 {UOW ID }

**説明:** Teradata Connector が、TMSM プロセスに対し、指定された作業単位 ID を生成しました。

**ユーザーの処置:** アクションは不要です。

---

#### IIS-CONN-TERA-05094I レコード・カウント値は {レコード・カウント} に設定されており、配列サイズ値は {配列サイズ} に設定されていました。「再接続」プロパティーを「はい」に設定すると、配列サイズ値はレコード・カウント値と一致する必要があります。コネクターは、配列サイズを {レコード・カウント} に変更します。

**説明:** 「再接続」プロパティーを「はい」に設定することで、接続がドロップした際に再接続を試行するようコネクターを構成した場合、配列サイズとレコード・カウントは等しくなければなりません。ジョブが実行されたとき、それらの値が等しくないことをコネクターが検出し、配列サイズを {レコード・カウント} に変更しました。

**ユーザーの処置:** このメッセージを削除するには、「配列サイズ」プロパティーの値を「レコード・カウント」プロパティーの値に設定してください。

---

#### IIS-CONN-TERA-05095I 接続に失敗しました。 Teradata エラー・コードは {エラー・コード} です。

**説明:** データベースへの再接続の試行は、指定された Teradata エラー・コードで失敗しました。コネクターは、接続を再試行する前に、「再試行間隔」プロパティーに指定された秒数待機します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

---

**IIS-CONN-TERA-05096I** データベースに再接続しようとしていますが、試行回数 {現在の試行回数} / {合計試行回数}。

説明: コネクターがデータベースに再接続するとき、このメッセージにより、それまでにコネクターが行った試行回数がジョブ・ログにリストされます。総再試行回数は、「再試行回数」プロパティによって定義されています。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

---

**IIS-CONN-TERA-05097I** データベースへの接続が失われました。Teradata エラー・コードは {エラー・コード} です。

説明: コネクターがデータを処理している間に、コネクターから Teradata データベースへの接続が失われました。Teradata によって返されたエラー・コードが、コネクターが再接続可能であり再接続するように構成されていることを示している場合、コネクターは接続を再確立してジョブを続行しようとします。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

---

**IIS-CONN-TERA-05098I** コネクターがデータベースに再接続しようとしています。{待ち時間} 秒待機してから再試行します。

説明: コネクターが、データベースへの接続の再確立を試行します。このメッセージは、接続性の問題により接続が失われた後、もしくは無応答タイムアウトになったためコネクターにより接続がドロップされた後、コネクターが再接続する際に表示される可能性があります。コネクターは {待ち時間} 秒待機します。これは、「再試行間隔」プロパティに指定された秒数です。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

---

**IIS-CONN-TERA-05099I** コネクターは、Teradata サーバー {サーバー名} に再び接続しました。

説明: 接続が失われたか非アクティビティにより接続が終了した後、コネクターが指定されたサーバーへの接続を正常に再確立しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

---

**IIS-CONN-TERA-05100E** レコード・カウント値は {レコード・カウント値} に設定されており、配列サイズ値は {配列サイズ値} に設定されていました。「再接続」プロパティを「はい」に設定すると、レコード・カウント値は配列サイズ値と一致する必要がありますが、ゼロにすることはできません。

説明: 「再接続」プロパティを「はい」に設定することで、接続がドロップした際に再接続を試行するようコネクターを構成した場合、配列サイズとレコード・カウントは等しくなければなりません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのステップを実行します。

- 接続がドロップした際にコネクターが再接続を試行するようにする場合は、「レコード・カウント」プロパティの値を「配列サイズ」プロパティの値に設定します。
- 接続がドロップした際にコネクターが再接続を試行しないようにする場合は、「再接続」プロパティを「いいえ」に設定して再接続オプションを無効にします。

---

**IIS-CONN-TERA-05101I** 非アクティビティの期間が {非アクティビティ期間} 秒経過したため、コネクターがデータベースから切斷されました。

説明: 現行接続において「非アクティビティ期間」プロパティに指定された非アクティビティの期間が経過したため、コネクターが接続を終了します。データが再度使用可能になったら、コネクターは再接続して続行します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

---

**IIS-CONN-TERA-05102I** コネクターは、必要に応じて再び接続を確立します。

説明: 接続において「非アクティビティ期間」プロパティに指定された非アクティビティの期間が経過したため、コネクターが接続を終了します。データが再度使用可能になったら、コネクターは再接続して続行します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

---

**IIS-CONN-TERA-05110E** サポートされない状態コード : {状態}。

説明: ソース・データを指す内部カーソルが予期しない状態であるため、Teradata Connector はデータの書き込みを行えません。

**ユーザーの処置:** ジョブ・ログとジョブ・デザインを収集して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。ジョブ・デザインは .dsx ファイルおよび .isx ファイルとしてエクスポートできます。

IBM ソフトウェア・サポートに連絡する前に収集する必要がある特定のログと情報については、InfoSphere Information Server インフォメーション・センターのトラブルシューティングのトピックを参照してください。

他のユーザーと共有できるようにジョブ・デザインを .dsx ファイルとしてエクスポートする方法については、InfoSphere Information Server インフォメーション・センターの InfoSphere DataStage and QualityStage ジョブのデザインに関するトピックを参照してください。他のユーザーと共有できるようにジョブ・デザインを .isx ファイルとしてエクスポートする方法については、InfoSphere Information Server インフォメーション・センターのジョブのデプロイおよびバージョン管理のアクセスに関するトピックを参照してください。

---

**IIS-CONN-TERA-05111E** このコネクタは、プロパティ {状態} の検証をサポートしていません。

**説明:** コネクタは指定されたプロパティを検証できません。

**ユーザーの処置:** コネクタの資料を参照して、指定されたプロパティを検証できるか確認してください。より新しいバージョンのコネクタでは、検証が行われる可能性があります。

---

**IIS-CONN-TERA-05112E** リンクに定義されている列が不十分であるため、SQL ステートメントを生成できません。

**説明:** リンクに定義されている列がないため、コネクタは SQL ステートメントを生成できません。

**ユーザーの処置:** 1 つ以上の列を定義してください。

---

**IIS-CONN-TERA-05113E** 列 {状態} の長さが指定されていないため、SQL ステートメントを生成できません。

**説明:** コネクタは、指定された列の長さが設定されていないため、SQL ステートメントを生成できません。

**ユーザーの処置:** 「列」ページに、指定された列の長さを入力してください。

---

**IIS-CONN-TERA-05114E** 列 {状態} のデータ・タイプが Unknown と指定されているため、SQL ステートメントを生成できません。

**説明:** コネクタは、指定された列のデータ・タイプが不明であるため、SQL ステートメントを生成できません。

**ユーザーの処置:** 「列」ページで、指定された列のデータ・タイプを選択してください。

---

## 付録 A. 製品のアクセシビリティ

IBM® 製品のアクセシビリティ対応状況についての情報を入手できます。

IBM InfoSphere® Information Server 製品のモジュールおよびユーザー・インターフェースは完全にはアクセシビリティ対応がなされていません。

IBM 製品のアクセシビリティ対応状況の詳細は、[http://www.ibm.com/able/product\\_accessibility/index.html](http://www.ibm.com/able/product_accessibility/index.html) の IBM 製品のアクセシビリティ情報をご覧ください。

### アクセシビリティ対応資料

IBM Knowledge Center には、製品のアクセシビリティ対応資料が用意されています。IBM Knowledge Center では、ほとんどの Web ブラウザーで表示可能な XHTML 1.0 形式で資料を提供しています。IBM Knowledge Center では XHTML を使用しているため、使用しているブラウザに設定されている表示形式で資料を表示できます。さらに、スクリーン・リーダーやその他の支援技術を使用して、資料にアクセスすることもできます。

IBM Knowledge Center にある資料は、PDF ファイルでも提供されますが、こちらは完全にはアクセシビリティ対応がなされていません。

### IBM のアクセシビリティに対する取り組み

アクセシビリティに関する IBM のコミットメントの詳細については、IBM Human Ability and Accessibility Center を参照してください。



---

## 付録 B. コマンド・ライン構文の読み方

この資料では、特殊文字を使用してコマンド・ライン構文を定義しています。

次の特殊文字によってコマンド・ライン構文が定義されます。

- [ ] オプションの引数を識別します。大括弧で囲まれていない引数は必須です。
- ... 前の引数に複数の値を指定できることを示します。
- | 同時には使用できない情報であることを示します。区切り文字の左側の引数か、右側の引数のどちらか一方を使用できます。単一のコマンド使用で、両方の引数を使用することはできません。
- { } 同時には使用できない一連の引数を囲みます。この内の 1 つは必須です。引数がオプションの場合、引数は大括弧 ([ ]) で囲まれます。

注:

- 引数の最大文字数は 256 です。
- 埋め込みのスペースがある引数値は、単一引用符または二重引用符で囲みます。

例:

```
wsetsrc[-S server] [-l label] [-n name] source
```

*source* 引数は、**wsetsrc** コマンドで唯一必須の引数です。他の引数は大括弧で囲まれています。これは、これらの引数がオプションであることを示します。

```
wlsac [-l | -f format] [key... ] profile
```

この例で、**-l** および **-f format** 引数は、同時には使用できないもので、オプションでもあります。*profile* 引数は必須です。*key* 引数はオプションです。*key* 引数のあとの省略符号 (...) は、複数の *key* 名を指定できることを示します。

```
wrb -import {rule_pack | rule_set}...
```

この例で、*rule\_pack* および *rule\_set* 引数は同時には使用できませんが、どちらか 1 つの引数は指定する必要があります。また、省略符号 (...) は、複数の *rule\_pack* または *rule\_set* を指定できることを示します。

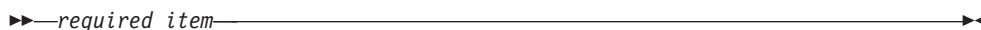




## 付録 C. 構文図の見方

本書で使用される構文図には、以下の規則が適用されます。

- 構文図は、左から右、上から下に、線に沿って読みます。以下の規則が使用されます。
  - >>--- 記号は、構文図の始まりを示します。
  - ---> 記号は、構文図が次の行に続くことを示します。
  - >--- 記号は、構文図が前の行から続いていることを示します。
  - --->< 記号は、構文図の終わりを示します。
- 必須項目は、水平線 (メインパス) 上にあります。



- オプション項目はメインパスの下に表示されます。

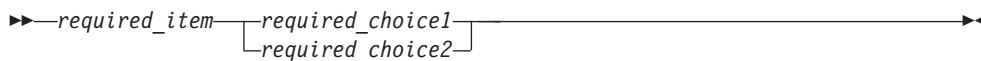


オプション項目がメインパスの上に表示される場合、その項目は構文要素の実行に影響せず、単に読みやすくするために使用されます。

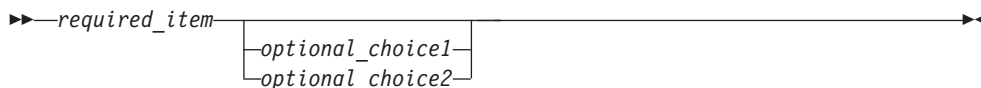


- 複数の項目から選択できる場合は、それらの項目を縦に並べて (スタック) 示しています。

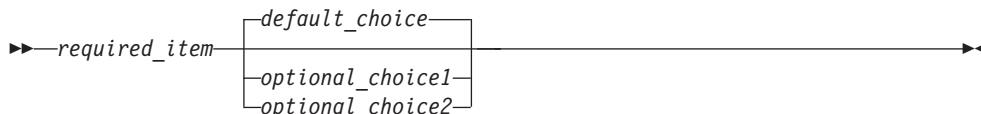
項目の 1 つを選択する必要がある場合は、スタックの 1 つの項目がメインパス上に示されています。



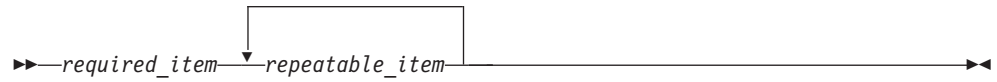
項目から 1 つをオプションで選択できる場合、スタック全体がメインパスよりも下に示されます。



項目の 1 つがデフォルトである場合は、その項目はメインパスの上に表示され、残りの選択項目は下に示されます。



- メインラインの上に、左へ戻る矢印がある場合には、項目を繰り返して指定できることを示しています。



繰り返しの矢印にコンマが含まれている場合は、繰り返し項目をコンマで区切らなければなりません。



スタックの上の反復矢印は、スタック内の項目を反復できることを示します。

- 構文図が、複数のフラグメントに分かれている場合があります。構文フラグメントはメインの構文図とは別に示されますが、フラグメントの内容は、図のメインパス上にあるものとして読む必要があります。



#### fragment-name:



- キーワードは大文字で表示され、最小の省略形が存在する場合にはそれも大文字で表示されます。示されているとおりに入力する必要があります。
- 変数は、すべて小文字のイタリック体 (例えば、**column-name**) で表示されます。これらは、ユーザーが指定する名前または値を表します。
- 図の中に句読点がない場合は、キーワードおよびパラメーターを 1 つ以上のスペースで区切ります。
- 句読記号、括弧、算術演算子、およびその他の記号は、図に示されているとおりに入力してください。
- 脚注は、(1) のように、括弧の中に数字を入れた形で示されます。

## 付録 D. IBM の窓口

お客様サポート、ソフトウェア・サービス、製品情報、および全般情報について、IBM と連絡を取ることができます。また、製品についてのフィードバックを行うことができます。

次の表に、お客様サポート、ソフトウェア・サービス、研修、製品およびソリューション情報に関するリソースをリストしています。

表1. IBM リソース

リソース	説明と場所
IBM サポート・ポータル	サポート情報は、 <a href="http://www.ibm.com/support/entry/portal/Software/Information_Management/InfoSphere_Information_Server">www.ibm.com/support/entry/portal/Software/Information_Management/InfoSphere_Information_Server</a> で、製品と関心のあるトピックを選択してカスタマイズできます。
ソフトウェア・サービス	ソフトウェア、IT、およびビジネス・コンサルティング・サービスについての情報は、「ソリューション」サイト <a href="http://www.ibm.com/businesssolutions/jp/ja">www.ibm.com/businesssolutions/jp/ja</a> にアクセスしてください。
My IBM	<a href="http://www.ibm.com/account/jp/ja/">www.ibm.com/account/jp/ja/</a> の「My IBM」サイトでアカウントを作成し、特定のテクニカル・サポートのニーズに合うように、IBM Web サイトおよび情報へのリンクを管理できます。
研修と認定	個人、法人、および公共団体向けに、IT 技術の習得、維持、最適化を目的としてデザインされた技術研修およびサービスについては、 <a href="http://www.ibm.com/training">http://www.ibm.com/training</a> にアクセスしてください。
IBM 担当員	ソリューションについて IBM 担当員と連絡を取るには、 <a href="http://www.ibm.com/connect/ibm/us/en/">www.ibm.com/connect/ibm/us/en/</a> にアクセスしてください。



---

## 付録 E. 製品資料へのアクセス

資料は、オンラインの IBM Knowledge Center、オプションでローカルにインストールしたインフォメーション・センター、PDF のブックといったさまざまな形式で提供されます。製品クライアント・インターフェースから、オンラインまたはローカルにインストールしたヘルプに直接アクセスすることができます。

IBM Knowledge Center は、InfoSphere Information Server の最新情報を探すのに最適な場所です。IBM Knowledge Center には、スイートのすべての製品モジュールの全資料のほか、ほとんどの製品インターフェースのヘルプも含まれています。IBM Knowledge Center は、インストール済み製品から開くことも、Web ブラウザーから開くこともできます。

### IBM Knowledge Center へのアクセス

オンライン資料にアクセスするには、さまざまな方法があります。

- クライアント・インターフェースで、画面右上の「ヘルプ」リンクをクリックします。
- F1 キーを押します。F1 キーを押すと、通常、クライアント・インターフェースの現行コンテキストを説明するトピックが開きます。

**注:** F1 キーは、Web クライアントでは機能しません。

- 製品にログインしていないときなどに、Web ブラウザーにアドレスを入力します。

すべてのバージョンの InfoSphere Information Server の資料にアクセスするには、以下のアドレスを入力します。

<http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSZJPZ/>

特定のトピックにアクセスするには、製品 ID とバージョン番号、資料プラグイン名、および URL 内のトピック・パスを指定します。例えば、バージョン 11.3 用のこのトピックの URL は以下のとおりです。(記号「⇒」は、行の継続を表します)

[http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSZJPZ\\_11.3.0/⇒com.ibm.swg.im.iis.common.doc/common/accessingiidoc.html](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSZJPZ_11.3.0/⇒com.ibm.swg.im.iis.common.doc/common/accessingiidoc.html)

#### ヒント:

Knowledge Center には、以下の短縮 URL もあります。

<http://ibm.biz/knowctr>

特定の製品ページ、バージョン、またはトピックの短縮 URL を指定するには、短縮 URL と製品 ID の間にハッシュ文字 (#) を使用します。例えば、すべての InfoSphere Information Server 資料の短縮 URL は、以下のとおりです。

<http://ibm.biz/knowctr#SSZJPZ/>

また、前述のトピックの URL を少し短くした短縮 URL は、以下のとおりです。(記号「⇒」は、行の継続を表します)

```
http://ibm.biz/knowctr#SSZJPZ_11.3.0/com.ibm.swg.im.iis.common.doc/⇒  
common/accessingiidoc.html
```

## ローカルにインストールした資料を参照するヘルプ・リンクの変更

IBM Knowledge Center には、最新版の資料が含まれています。一方、インフォメーション・センターとしてローカル版の資料をインストールして、それを指すようにヘルプ・リンクを構成することも可能です。ローカルのインフォメーション・センターは、お客様の企業でインターネットへのアクセスが提供されていない場合に便利です。

インフォメーション・センターのインストール・パッケージに付属するインストール手順を使用して、任意のコンピューターにそれをインストールします。インフォメーション・センターをインストールして開始した後、サービス層のコンピューターで **iisAdmin** コマンドを使用して、製品の F1 とヘルプ・リンクで参照する資料の場所を変更できます。(記号「⇒」は、行の継続を表します)

### Windows

```
IS_install_path¥ASBServer¥bin¥iisAdmin.bat -set -key ⇒  
com.ibm.iis.infocenter.url -value http://<host>:<port>/help/topic/
```

### AIX® Linux

```
IS_install_path/ASBServer/bin/iisAdmin.sh -set -key ⇒  
com.ibm.iis.infocenter.url -value http://<host>:<port>/help/topic/
```

ここで、<host> はインフォメーション・センターがインストールされたコンピューターの名前、<port> はインフォメーション・センターのポート番号です。デフォルトのポート番号は 8888 です。例えば、デフォルト・ポートを使用するコンピューター `server1.example.com` 上の URL 値は、`http://server1.example.com:8888/help/topic/` になります。

## PDF およびハードコピー資料の入手

- PDF ファイルのブックはオンラインで利用可能で、サポートの文書 <https://www.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg27008803&wv=1> からアクセスできます。
- IBM 資料は、オンラインでダウンロード、または IBM 担当員を通じてご注文いただけます。資料をオンラインでダウンロードするには <http://www.ibm.com/e-business/linkweb/publications/servlet/pbi.wss> の IBM Publications Center にアクセスしてください。

---

## 付録 F. 製品資料に関するフィードバックの提供

IBM の資料に関する貴重なフィードバックをご提供ください。

お客様からのご意見やご感想は、IBM が質の高い情報を提供するための参考にさせていただきます。ご意見をお寄せいただく場合は、次のいずれかの方法を使用することができます。

- IBM の Web サイトでホストしている IBM Knowledge Center 内のトピックについてコメントをお寄せいただくには、サインインし、トピックの下の「**コメントの追加**」ボタンをクリックしてコメントを追加してください。このようにして送信されたコメントは、一般に公開されます。
- IBM Knowledge Center 内のトピックに関するコメントを IBM に送信し、他の人からは閲覧できないようにするには、サインインし、IBM Knowledge Center の下の「**フィードバック**」リンクをクリックしてください。
- オンライン・リーダー用のコメント・フォーム ([www.ibm.com/software/awdtools/rcf/](http://www.ibm.com/software/awdtools/rcf/)) を使用して、コメントを送信します。
- コメントを E メールで [comments@us.ibm.com](mailto:comments@us.ibm.com) に送付します。お送りいただく情報には、製品の名前、製品のバージョン番号、資料の名前と部品番号 (該当する場合) を含めてください。特定のテキストについてご意見がある場合は、そのテキストの位置 (例えば、タイトル、表番号、ページ番号など) を記載してください。





---

## 特記事項および商標

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。この資料は、IBM から他の言語でも提供されている可能性があります。ただし、ご利用にはその言語版の製品もしくは製品のコピーを所有していることが必要な場合があります。

### 特記事項

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510  
東京都中央区日本橋箱崎町19番21号  
日本アイ・ビー・エム株式会社  
法務・知的財産  
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation  
J46A/G4  
555 Bailey Avenue  
San Jose, CA 95141-1003 U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのもと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、さまざまなオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されて

います。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。© Copyright IBM Corp. \_年を入れる\_. All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

## プライバシー・ポリシーに関する考慮事項

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品（「ソフトウェア・オファリング」）では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie はじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。多くの場合、ソフトウェア・オファリングにより個人情報が収集されることはありません。IBM の「ソフトウェア・オファリング」の一部には、個人情報を収集できる機能を持つものがあります。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらの Cookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的事項を確認ください。

このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、セッションごとの Cookie または永続的な Cookie を使用する場合があります。製品またはコンポーネントがリストされていない場合、その製品またはコンポーネントは Cookie を使用しません。

表 2. InfoSphere Information Server 製品およびコンポーネントによる Cookie の使用

製品モジュール	コンポーネントまたは機能	使用される Cookie の種類	収集するデータ	データの目的	Cookie の無効化
すべて (InfoSphere Information Server インストール済み環境の部分)	InfoSphere Information Server Web コンソール	<ul style="list-style-type: none"> <li>セッション</li> <li>永続</li> </ul>	ユーザー名	<ul style="list-style-type: none"> <li>セッション管理</li> <li>認証</li> </ul>	無効にできない

表 2. InfoSphere Information Server 製品およびコンポーネントによる Cookie の使用 (続き)

製品モジュール	コンポーネントまたは機能	使用される Cookie の種類	収集するデータ	データの目的	Cookie の無効化
すべて (InfoSphere Information Server インストール済み環境の部分)	InfoSphere Metadata Asset Manager	<ul style="list-style-type: none"> <li>セッション</li> <li>永続</li> </ul>	個人情報でない	<ul style="list-style-type: none"> <li>セッション管理</li> <li>認証</li> <li>拡張されたユーザーのユーザビリティ</li> <li>シングル・サインオン構成</li> </ul>	無効にできない
InfoSphere DataStage®	Big Data File ステージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>セッション</li> <li>永続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ユーザー名</li> <li>デジタル署名</li> <li>セッション ID</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>セッション管理</li> <li>認証</li> <li>シングル・サインオン構成</li> </ul>	無効にできない
InfoSphere DataStage	XML ステージ	セッション	内部 ID	<ul style="list-style-type: none"> <li>セッション管理</li> <li>認証</li> </ul>	無効にできない
InfoSphere DataStage	IBM InfoSphere DataStage and QualityStage® Operations Console	セッション	個人情報でない	<ul style="list-style-type: none"> <li>セッション管理</li> <li>認証</li> </ul>	無効にできない
InfoSphere Data Click	InfoSphere Information Server Web コンソール	<ul style="list-style-type: none"> <li>セッション</li> <li>永続</li> </ul>	ユーザー名	<ul style="list-style-type: none"> <li>セッション管理</li> <li>認証</li> </ul>	無効にできない
InfoSphere Data Quality Console		セッション	個人情報でない	<ul style="list-style-type: none"> <li>セッション管理</li> <li>認証</li> <li>シングル・サインオン構成</li> </ul>	無効にできない
InfoSphere QualityStage Standardization Rules Designer	InfoSphere Information Server Web コンソール	<ul style="list-style-type: none"> <li>セッション</li> <li>永続</li> </ul>	ユーザー名	<ul style="list-style-type: none"> <li>セッション管理</li> <li>認証</li> </ul>	無効にできない
InfoSphere Information Governance Catalog		<ul style="list-style-type: none"> <li>セッション</li> <li>永続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ユーザー名</li> <li>内部 ID</li> <li>ツリーの状態</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>セッション管理</li> <li>認証</li> <li>シングル・サインオン構成</li> </ul>	無効にできない
InfoSphere Information Analyzer	InfoSphere DataStage and QualityStage Designer クライアントの中の Data Rules ステージ	セッション	セッション ID	セッション管理	無効にできない

この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人を特定できる情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、このような情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライ

ン等を遵守する必要があります。これには、エンドユーザーへの通知や同意の要求も含まれますがそれらには限られません。

このような目的での Cookie を含むさまざまなテクノロジーの使用の詳細については、IBM の『IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント』 (<http://www.ibm.com/privacy/details/jp/ja/>) の『クッキー、ウェブ・ビーコン、その他のテクノロジー』および『IBM Software Products and Software-as-a-Service Privacy Statement』 (<http://www.ibm.com/software/info/product-privacy>) を参照してください。

## 商標

IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](http://www.ibm.com)<sup>®</sup> は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

以下は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

Adobe は、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Intel、Itanium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標です。

Microsoft、Windows および Windows NT は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Java<sup>™</sup> およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。



---

## 索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

### [ア行]

お客様サポート  
連絡先 21

### [カ行]

構文  
    コマンド・ライン 17  
コマンド  
    構文 17  
コマンド・ライン構文  
    規則 17

### [サ行]

サポート  
    お客様 21  
商標  
    リスト 27  
製品資料  
    アクセス 23  
製品のアクセシビリティ  
    アクセシビリティ 15  
ソフトウェア・サービス  
    連絡先 21

### [タ行]

特殊文字  
    コマンド・ライン構文での 17  
特記事項 27

### [マ行]

メッセージ・リファレンス  
    Teradata Connector 1

## W

Web サイト  
    IBM 以外 19









Printed in Japan

SC43-1008-00



日本アイ・ビー・エム株式会社  
〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19-21